

女子大学院生・ポスドクと産総研女性研究者との懇談会開催報告

山岡香子¹⁾・産総研 ダイバーシティ推進室

産総研ダイバーシティ推進室主催の「女子大学院生・ポスドクと産総研女性研究者との懇談会」が、中部センター及びつくばセンターで開催されました。このイベントは、女性の大学院生・ポスドクの方々に、産総研の職場紹介や在職女性研究者との懇談を通して研究職のキャリアイメージを持っていただくことを目的としたものです。昨年度はつくばセンターのみでの開催でしたが、2017年度は遠方の参加者にも配慮し、地方センターでも開催されることとなりました。本稿では、地質調査総合センター(GSJ)に関連する部分を中心に報告させていただきます。

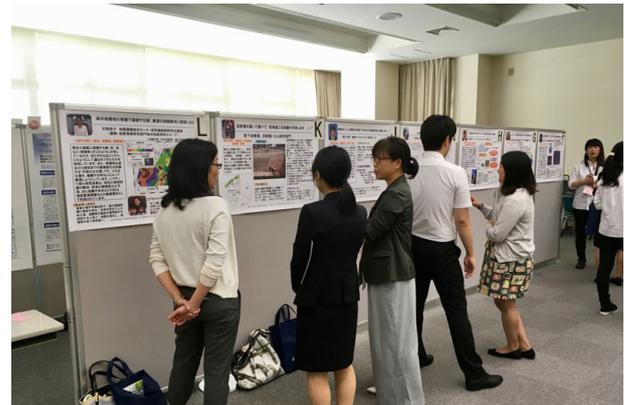


写真1 中部センターでの女性研究者との懇談会。

1. 女子大学院生・ポスドクと産総研女性研究者との懇談会 in 名古屋

中部センターでのイベントは、2017年9月25日(月)に下記のプログラムで開催されました。

9月25日(月)

- 12:00 受付開始
- 13:15～14:30 産総研紹介
- 14:30～15:30 女性研究者との懇談会
- 15:30～17:00 ラボ見学, 産総研の研究紹介(ポスターセッション)
- 17:00 閉会

産総研紹介では、最初に加藤一実理事による挨拶がありました。加藤理事は中部センターがご出身の産総研唯一の女性役員で、これまでのバイタリティ溢れるご自身の研究キャリアについて話されました。続いて、人事室、イノベーションスクール事務局、産学官・国際連携推進部連携企画室、ダイバーシティ推進室より、産総研の採用制度や支援制度等について紹介がありました。その後、各研究領域の紹介ポスターや女性研究者の自己紹介ポスターの前で、懇談会が行われました(写真1)。GSJからは、活断層・火山研究部門 活断層評価研究グループの宮下由香里研究グループ長と、地質情報研究部門 海洋地質研究グループ

の天野敦子主任研究員が、懇談会に参加しました。中部センターの研究は材料分野が中心なこともあり、残念ながら地質が専門の参加者はいませんでした。地質調査がどういったものなのかについて興味を持っていただけたようでした。イベントは大変好評であったものの、参加者が10名程度と少なかったことが、今後地域センターで開催する上での課題となりました。

2. 女子大学院生・ポスドクと産総研女性研究者との懇談会 in つくば

つくばセンターでのイベントは、2017年11月20日(月)～21日(火)の2日間にわたり、下記のプログラムで開催されました。

11月20日(月)

- 13:30 受付開始
- 14:00～15:00 産総研の研究紹介(ポスターセッション)
- 15:00～17:00 ラボ見学ツアー
- 17:30～19:30 交流会

11月21日(火)

- 10:00～12:00 研究領域独自プログラム
- ① 地質標本館ツアーと岩石薄片ができるまで

1) 産総研 地質調査総合センター研究戦略部

キーワード：女性研究者、ダイバーシティ推進

- ② エネルギー・環境領域ポスターセッション
- ③ サイエンス・スクエアつくば ガイド付き見学ツアー
 - 12:00～13:00 産総研の研究紹介(ポスターセッション)
 - 13:00～14:00 産総研の各種制度紹介
 - 14:00～15:00 女性研究者紹介(パネルディスカッション)
 - 15:00～16:30 女性研究者との懇談会
 - 16:30～17:00 閉会式

1日目は、ポスターセッションによる産総研の研究紹介が始まりました。GSJの説明は、研究戦略部研究企画室の山岡が担当しました。ポスター前には次々と参加者が訪れ、参加者の専門分野にかかわらず、GSJの活動の全体像を知っていただくことができました。続いて、ラボ見学ツアーでは、地圏資源環境研究部門 地圏微生物研究グループの持丸華子主任研究員と、地質情報研究部門 地球化学研究グループの久保田蘭主任研究員が、研究内容や実験設備の紹介を行いました。持丸氏は、様々な種類のメタン生成菌を培養しているところや、特定の光を当てると菌の細胞が発光の様子を紹介しました(写真2)。さりげなくサイエンス誌に掲載された論文を紹介するなど、GSJの非常に高い研究レベルをアピールしました。久保田氏は、無機元素の分析機器を紹介しつつ、地球化学図や地球化学標準試料について、実物を見せながら説明しました(写真3)。参加者には、先端的な研究とともに基盤的な地質情報の整備がGSJの重要なミッションであることを理解していただけました。また両氏は、入所の経緯や育児との両立について自体験に基づいて率直に紹介し、参加者は、より具体的なイメージが描けたようでした。ラボ見学ツアーは2回行われ、GSJのツアーには計11名にご参加いただきました。夜には、構内の食堂で交流会が行われました。GSJ研究戦略部からは、森田澄人研究企画室長、宮地良典総括企画主幹、佐藤大介企画主幹、山岡の4名が参加し、和やかな雰囲気の中、参加者からの様々な質問に答えました。

2日目の午前には、研究領域独自プログラムが行われました。GSJは「地質標本館ツアーと岩石薄片ができるまで」と題し、13名の参加者を地質標本館および地質試料調製室にご案内しました。地質標本館では、活断層・火山研究部門 火山活動研究グループの草野有紀研究員と、地質情報基盤センター アーカイブ室の森尻理恵総括主幹が、館内展示の説明を行いました(写真4)。やはり火山のコーナーでは、草野氏の説明にも一段と熱が入っていたようでした。続いて、参加者は地質試料調製室に移動し、地質試料調製グループの平林恵理主査が、GSJの高度な薄片技術について、実際の薄片試料を見たり触ったりしてもらいな

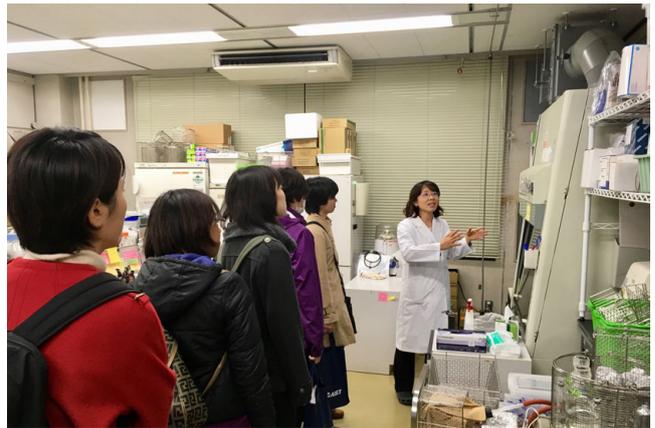


写真2 地圏微生物研究グループのラボ見学。



写真3 地球化学研究グループのラボ見学



写真4 地質標本館の見学。

がら紹介しました(写真5)。岩石だけでなく、植物や昆虫なども薄片にしてしまう技術に、参加者からは感嘆の声があがっていました。昼休み中も2回目のポスターセッションが行われ、GSJの説明は研究戦略部研究企画室の片山泰樹企画主幹が担当しました。参加者は昼食もそこそこに、各領域の研究紹介を熱心に聞き入っていたようでした。

午後は、加藤一実理事による挨拶の後、採用制度や育児



写真5 地質試料調製グループの見学。



写真7 研究領域ブースでの女性研究者との懇談会。



写真6 パネルディスカッションによる女性研究者紹介。



写真8 森田研究企画室長から参加者へのメッセージ。

支援制度など、産総研の様々な制度について紹介がありました。その後、パネルディスカッション形式で、産総研女性研究者の紹介が行われました(写真6)。パネリストは各研究領域から2名ずつで、GSJからは活断層・火山研究部門 活断層評価研究グループの宮下由香里研究グループ長と、地質情報研究部門 海洋地質研究グループの天野敦子主任研究員が参加しました。まず、各女性研究者が自己紹介を行った後、参加者からの質問に答えました。会場からは、「大学と産総研の違いは?」「結婚や出産のタイミングは?」「職場で旧姓使用はできるか?」など、女性のキャリアやライフプランに関する質問が次々と飛びだし、参加者の関心の高さがうかがわれました。続いて、各研究領域のブースに分かれての懇談会が行われました。どのブースでも話が尽きない様子で、会場は活気に包まれていました。GSJのブースにはフィリピンや中国からの留学生も訪れ、英語も交えながらの懇談となりました(写真7)。閉会式では、各研究領域から参加者へ向けて熱いメッセージが送られました。GSJからは森田研究企画室長が、GSJは135年の歴史を持つ研究所であるが、常に先端的な研究

や情報発信に取り組んでいるとアピールし、例として地質図Naviを紹介すると、会場でも早速スマートフォンで検索している姿が見られました(写真8)。最後に、三木幸信副理事長が閉会の挨拶をされ、2日間のイベントが無事に終了しました。つくばセンターのイベント参加者数は46名で、中には中部センターとの両方に参加した方もおられたとのことでした。少しお疲れ気味だった在職女性研究者が、熱意に溢れた女子大学院生・ポストドクの皆さんから逆に元気をもらったような気もします。今回のイベントに参加された皆さんに、少しでもGSJの魅力をお伝えできたのであれば幸いです。このようなイベントを通じて、GSJそして産総研への就職を志し、将来を担う女性研究者が増えていくことを期待したいと思います。

YAMAOKA Kyoko and Diversity and Equal Opportunity Office (2018) Laboratory Tours and Round Table Talk with Female Graduate Students and Women Researchers in AIST.

(受付:2017年12月8日)